

2

各地域包括支援センターの 地域ケア会議実施報告

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
1	基幹	消費者被害から高齢者を守り、安心して生活ができる地域づくり	①認知症 ②ひきこもり・孤立 ③消費者被害	孤立している高齢者や認知機能が低下している高齢者は消費者被害に遭い易い		・民生・児童委員の活動の中での見守り ・心配な方をホウカツと共有	・実態把握訪問や孤立ゼロプロジェクトを通じた高齢者宅の定期訪問 ・認知機能低下のある方を適切な支援につなぐ(介護保険制度、サロン、介護予防教室、もの忘れ相談など)	孤立している高齢者は相談先などの情報を知らず、消費者被害に遭い易い	・孤立ゼロプロジェクトの町会説明会・報告会の際の情報提供や啓発グッズの配布 ・消費者センターの出前講座や区報、区民祭り等での情報提供	・町会自治会や民生委員活動の中での情報提供	・実態把握訪問や孤立ゼロプロジェクトを通じ高齢者宅の訪問活動の際の情報提供 ・あんしん連絡会や出前講座での情報提供
2	あだち	「介護現場で起きているカスタマーハラスメントとその対応について」	①認知症 ②精神疾患(疑念) ③障がい・精神障がい者同居	高圧的な態度をとる方に対し精神的に疲弊し気持ちが萎縮する。			・毅然とした態度で対応する。 ・「防犯カメラ作動中」の貼り紙を取り付ける。	カスハラを受けた際の相談窓口がない。	相談の受け皿が十分ではない。		
		認知症になっても地域で暮らし続けられる土台づくりについて	①認知症					・自治会がホウカツの役割や機能について理解できていない(何かあるとJKKへ相談し、JKKどまりになっている) ・住民間の見守り体制の不構築状態			
		「通いの場をつくろう！～いくつになっても好きな活動を続けていくために～」	①介護予防 ②ひきこもり・孤立	本人が希望する通いの場が地域では不足している。		・当事者グループ(シンフォニー)の見学。 ・男性の調理サロン(ドレッシング)の情報提供 ・脳フェス(オンライン)でつながる ・担い手としての活動を検討する。	・当事者グループ(シンフォニー)の見学。 ・男性の調理サロン(ドレッシング)の情報提供 ・脳フェス(オンライン)でつながる ・担い手としての活動を検討する。	・地域の資源がわからない ・地域のニーズが整理されていない ・通いの場のスペースがない	社会資源の一覧の活用 ・資源リストの普及 ・あだちの一覧の作成 興味関心シートを使用した調査の実施 ・活動場所の提供	社会資源の一覧の活用 ・資源リストの普及 ・あだちの一覧の作成 興味関心シートを使用した調査の実施 ・活動場所の提供	社会資源の一覧の活用 ・資源リストの普及 ・あだちの一覧の作成 興味関心シートを使用した調査の実施 ・活動場所の提供
		「高齢者の居場所と役割～自分らしく生きるためには～」	①ひきこもり・孤立	個々の高齢者が地域で「役割」や「生きがい」を持って生活できる場を作り提供できる		個人の特性や、生きてきた背景を理解し、その人に合わせた役割や居場所の提供を行っていく	個人の特性や、生きてきた背景を理解し、その人に合わせた役割や居場所の提供を行っていく	様々な背景を持つ高齢者が、地域で生活していく中でつながりや力を発揮してもらえる様々な「場所」や「機会」の提供ができる	居場所を継続していくための金銭的な支援	・地域住民の認知症への理解 ・居場所を継続していくための心理的支援	・地域住民の認知症への理解 ・地域の個々の高齢者の生きがいや役割を把握 ・居場所を継続していくための心理的支援

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
3	伊興	高齢者が地域から切り離されず生活できる取り組み	①ひきこもり・孤立 ②認知症 ③老老介護 ④介護予防	・将棋の相手を探す ・いろいろな人がかわり信頼関係を築く ・家族に対してレスパイトケアを展開する		・デイサービスとみんなの広場で認知症に理解ある対戦相手を探す ・デイサービスとみんなのひろばでAIを活用し将棋がわからない人でもスタッフ中心に対戦相手になる ・デイスタッフや地域住民がさまざまに声をかけ、心配してくれる人は信用できることをわかってもらう ・デイ送迎、みんなのひろばともに家族以外の人がかかわり人と外出に慣れてもらう ・家族の通院日にデイに行けるようになる。 ・家族の介護負担をかかわる人がねぎらえる	・デイサービスとみんなの広場で認知症に理解ある対戦相手を探す ・デイサービスとみんなのひろばでAIを活用し将棋がわからない人でもスタッフ中心に対戦相手になる ・デイスタッフや地域住民がさまざまに声をかけ、心配してくれる人は信用できることをわかってもらう ・デイ送迎、みんなのひろばともに家族以外の人がかかわり人と外出に慣れてもらう ・家族の通院日にデイに行けるようになる。 ・家族の介護負担をかかわる人がねぎらえる	・みんなの三丁目ひろばに関わる人を増やす ・機能低下により動けなくなる前に地域になじむ	・地域での周知活動継続。個別に声掛けて地道に増やす ・専門職ボランティアとして専門職ネットワークを生かして人を増やし活動を支える ・ホウカツも専門職も常時固定参加は難しい。専門職が支援活動するための制度設計、予算措置が必要 ・各自治会長は安否確認に苦勞している。孤立、ひきこもり予防に元気な時から外出する仕組み、元気を確認できる方法が欲しい。外国人には翻訳アプリ、安否確認アプリなど周知活動、利用支援を進めてほしい。	・地域での周知活動継続。個別に声掛けて地道に増やす ・専門職ボランティアとして専門職ネットワークを生かして人を増やし活動を支える ・ホウカツも専門職も常時固定参加は難しい。専門職が支援活動するための制度設計、予算措置が必要 ・各自治会長は安否確認に苦勞している。孤立、ひきこもり予防に元気な時から外出する仕組み、元気を確認できる方法が欲しい。外国人には翻訳アプリ、安否確認アプリなど周知活動、利用支援を進めてほしい。	・地域での周知活動継続。個別に声掛けて地道に増やす ・専門職ボランティアとして専門職ネットワークを生かして人を増やし活動を支える ・ホウカツも専門職も常時固定参加は難しい。専門職が支援活動するための制度設計、予算措置が必要 ・各自治会長は安否確認に苦勞している。孤立、ひきこもり予防に元気な時から外出する仕組み、元気を確認できる方法が欲しい。外国人には翻訳アプリ、安否確認アプリなど周知活動、利用支援を進めてほしい。
4	入谷	高齢の親と同居する子供が精神疾患の場合の支援	①精神疾患(疑念) ②ひきこもり・孤立 ③金銭管理 ④認知症 ⑤障がい・精神障がい者同居 ⑥サービス拒否	・それぞれの行政機関・地域・警察など関与しており、どのように対応しているかわからない。 ・引きこもりに対しての相談が入った場合の対応方法	行政機関・警察・地域住民が8050問題に関わったときにどのように対応してよいか共通のフローチャートを作成してはどうか。(区民、民生委員でも分かるもの)	・行政機関・警察・地域住民が8050問題に関わったときにどのように対応してよいか共通のフローチャートを作成してはどうか。(区民、民生委員でも分かるもの) ・福祉まるごと相談課などへ相談し、早期に対応していく。	・行政機関・警察・地域住民が8050問題に関わったときにどのように対応してよいか共通のフローチャートを作成してはどうか。(区民、民生委員でも分かるもの)	・ひきこもり家庭に経済的に負担が掛かっている方が多い。 ・金銭的権利擁護に絡んでくる事が多い。 ・8050(ひきこもり)に対し家庭内の事は相談しづらい認識風潮がある。	・生活保護・精神科の自立支援など制度の力を使う ・「ひきこもりは恥かしい事ではない」「誰でもなる可能性がある」「少しでも早く相談する事が重要」 ・このような認識理解を地域に浸透させていく啓発活動が必要である。	・生活保護・精神科の自立支援など制度の力を使う ・「ひきこもりは恥かしい事ではない」「誰でもなる可能性がある」「少しでも早く相談する事が重要」 ・このような認識理解を地域に浸透させていく啓発活動が必要である。	・生活保護・精神科の自立支援など制度の力を使う ・「ひきこもりは恥かしい事ではない」「誰でもなる可能性がある」「少しでも早く相談する事が重要」 ・このような認識理解を地域に浸透させていく啓発活動が必要である。
5	扇	高齢者ドライバーの免許返納のタイミング・運転以外の本人のやりがいに繋げられるか	①認知症	・免許返納後の本人のやりがい、発掘 ・本人が利用出来る介護保険外サービスの発掘	スポーツ振興課へ問い合わせ、区内で実施している健常者・障がい者が共に参加出来るものを提案。	・地域で運動が出来る場所の提案 ・スポーツ振興課へ問い合わせ、区内で実施している健常者・障がい者が共に参加出来るものを提案。	・地域で運動が出来る場所の提案 ・スポーツ振興課へ問い合わせ、区内で実施している健常者・障がい者が共に参加出来るものを提案。	・認知症になっても働ける環境の整備。 ・免許返納後の代替え交通機関がない。	・一層からの情報収集の継続。 ・現時点で地域で働ける場所はない為、今後広域で検討する必要がある。	・タクシー以外には現時点ではなし。運転を継続するのであれば、金銭的に問題がなければ、サポートカー等の提案。	・一層からの情報収集の継続。 ・現時点で地域で働ける場所はない為、今後広域で検討する必要がある。 ・タクシー以外には現時点ではなし。運転を継続するのであれば、金銭的に問題がなければ、サポートカー等の提案。
6	江北	判断能力があるが金銭管理ができず生活困窮しているケース	①金銭管理 ②精神疾患(疑念) ③生活困窮	支払うべき必要な所への支払いが滞り、生活に支障をきたしている。			支払うべきところの優先順位(特に住まい)を付け、的を絞って生活に支障をきたさない様、見守っていく。	滞納状況を早期に発見できる仕組みや、金銭管理を行う制度を利用するにも本人の同意が必要で有る事がハードルになっている。		CMのシャドーワークをなくすためにも、滞納状況の把握や本人への説明、促しを担ってくれる「ゆるやかな金銭管理」ができる制度があると良い。	

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
7	さの	若年性認知症の支援体制について	①認知症 ②近隣トラブル ③生活困窮 ④ひきこもり・孤立 ⑤サービス拒否 ⑥金銭管理 ⑦その他(身寄りなし)	・若い人でも抵抗なく利用できる集まりがほしい(公的・公的外) ・権利擁護に繋げるタイミング ・当事者と話せる場所・機会がほしい			・障がいサービスの情報提供。(地域活動支援センター)、ボランティア活用、サロンへの参加。 ・本人意向を早めに聞きとっておき、成年後見申立てに繋げる。 ・金銭面を詳しく聞いておく。 ・じぶんノートの情報提供。	・近隣に若年性認知症のことで相談できる専門機関が少ない ・周囲への認知症の理解(地域住民・警察)	地域住民や、警察に認知症サポーター養成講座を行う。		地域住民や、警察に認知症サポーター養成講座を行う。
8	鹿浜	認知症にてひとり歩きを繰り返し、警察に保護をされる高齢者の支援について	①認知症 ②サービス拒否 ③老老介護	・介護負担の軽減 ・認知症高齢者のひとり歩き増加 ・医療アプローチ ・ひとり歩き時のリスク軽減 ・認知症に起因するひとり歩き ・地域とのつながり	・認知症について相談窓口の周知 ・状況に応じた内服調整 ・見守りキーホルダーの活用 ・地域の見守り体制強化 ・サロンなど地域資源とのマッチング	・認知症について相談窓口の周知 ・状況に応じた内服調整 ・見守りキーホルダーの活用 ・地域の見守り体制強化 ・サロンなど地域資源とのマッチング	・認知症について相談窓口の周知 ・状況に応じた内服調整 ・見守りキーホルダーの活用 ・地域の見守り体制強化 ・サロンなど地域資源とのマッチング	・地域に暮らす多世代に対して認知症の理解促進 ・町会等の見守り活動制度の促進	区からの補助金活用	地域住民に対して認知症サポーター養成講座を開催する	小学校の授業で認知症サポーター養成講座取り入れる
9	新田	精神疾患を抱える子と暮らす要介護高齢者の支援～複合的なニーズを抱えるケースの支援を考える～	①精神疾患(疑念) ②ひきこもり・孤立 ③障がい・精神障がい者同居 ④サービス拒否	・長男の世話も含めた家事等が負担 ・精神的疲労、意欲・記憶低下 ・長男に関しての相談先がわからない ・うつ病の長男に対して支援者が不在	・福祉まらごと相談課へ相談し障がい施策につなげる ・長男の根本的精神疾患を確認 ・長男への必要な支援の導入		長男に本人の状態を知ってもらい必要なサービスを理解してもらう	家族支援に関する相談先の周知	・在宅療養支援窓口、福祉まらごと相談課、セーフティーネットあだち、保健センター、ひきこもり会等の相談先を周知 ・在宅療養窓口にチラシを設置(医療介護連携課) ・関係機関への研修(福祉まらごと相談課)	・在宅療養支援窓口、福祉まらごと相談課、セーフティーネットあだち、保健センター、ひきこもり会等の相談先を周知 ・民生委員自主研修会等で周知	・在宅療養支援窓口、福祉まらごと相談課、セーフティーネットあだち、保健センター、ひきこもり会等の相談先を周知 ・地域ケアネットワーク、絆のあんしんネットワーク連絡会等にて周知
10	関原	孤立ゼロに受けた梅田地域の取り組み ～つながりつづけるために～	①ひきこもり・孤立	・緊急時に安全確認ができない課題への対応 ・異変に気付にくい課題への対応 ・独居高齢者のつながり不足への対応	本人同意のもと、知っている関係者(町会、近隣、配達事業者等)を複数確保し、日常の変化が把握できる環境を作る	・家族、支援者との緊急連絡先共有により、迅速に室内確認できる仕組みづくり ・配食、新聞、訪問系サービス、管理人と共通の異変通報ルートを明確化し、異変の早期発見につなげる ・本人同意のもと、知っている関係者(町会、近隣、配達事業者等)を複数確保し、日常の変化が把握できる環境を作る	・家族、支援者との緊急連絡先共有により、迅速に室内確認できる仕組みづくり ・配食、新聞、訪問系サービス、管理人と共通の異変通報ルートを明確化し、異変の早期発見につなげる ・本人同意のもと、知っている関係者(町会、近隣、配達事業者等)を複数確保し、日常の変化が把握できる環境を作る	・ホウカツや相談先が地域に浸透していない課題 ・地域の異変察知力(地域の感度)が低い課題 ・オートロックマンションなど見守りが届かない課題	・生活動線に、周知チラシ・QRコード付き掲示を行い、認知度を高める ・管理会社等と連携し、マンション向け見守りガイドラインなどを導入する。	・異臭、新聞滞留等の気づきポイントリストを地域で共有し、住民全体の見守り意識を向上させる ・管理会社等と連携し、マンション向け見守りガイドラインなどを導入する。	・生活動線に、周知チラシ・QRコード付き掲示を行い、認知度を高める ・異臭、新聞滞留等の気づきポイントリストを地域で共有し、住民全体の見守り意識を向上させる ・管理会社等と連携し、マンション向け見守りガイドラインなどを導入する。

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
11	千住西	どんなに健康でも、 たおれるときがくる かもしれない… 「おひとりさまの老 いじたく」～10年 後も健康的な生活 を維持するために～	①認知症 ②ゴミ屋敷 ③金銭管理 ④生活困窮 ⑤ひきこもり・孤立 ⑥その他(医療診受 診)	・手持ち15万円 ・ひとり暮らし ・公共料金滞納 ・身寄りがない ・認知症の疑い ・ゴミ屋敷かた づけ ・火災の恐れあり ・医療未受診 ・保険証がない ・認知症ケア ・エアコン故障 ・今後の暮らし	・お金がない⇒福祉課へ 相談 ・区長申立。成年後見制度 活用へ。	・認知症の方の行動には 理由がある ⇒相手に合わせたアプ ローチが必要 ・地域の気づきやつながり が大切 ⇒医療機関受診	・いま問題が発生してい ても、 ⇒本人に歴史がある ・認知症の方の行動には 理由がある ⇒相手に合わせたアプ ローチが必要 ・地域の気づきやつながり が大切 ⇒医療機関受診 ・保険証再発行・区役所へ ⇒日課・役割をもつ。 ・熱中症対策 ⇒センターへ顔を出し 安否確認	・個人の老い支度 ・家族に期待できない ・制度が知られてない ・認知症のかかわり方 ・健康寿命を延ばす ・健診受診率50％ ・地域の居場所づくり (自治会の取り組み) ・シルバー会員高齢化 「仕事にきてない」 「お金がない」相談増 ・火災の恐れあり	・地域住民向け学習会の 開催 ⇒介護保険制度や訪問 看護等理解 ・体操・健康チェックの出張 ・シアター1010で学習会を する ⇒自分の現在地を知る ⇒河原町自治会スマイル・ ルーム ・緊急通報システム等 ・ホウカツ・福祉課へつなぐ ⇒高齢者宅訪問・防火診 断実施 ⇒じぶんノートの活用と 書き方	・高齢者の特定健診を 受ける ・無料健診の周知 ・11月から河原町会館にて 開催 ⇒シルバーの支所会議で 学習会実施	
12	千寿の郷	健康管理のため に、家屋内の堆積 物の処分と事後生 活環境維持に必要 な支援をチームで 考える	①ゴミ屋敷 ②生活困窮 ③サービス拒否 ④金銭管理 ⑤近隣トラブル ⑥介護予防 ⑦認知症	・堆積物の削減 ・堆積物削減後の 維持 ・生活環境の改善 ・持病や体調の悪 化防止 ・持病や体調の悪 化防止 ・楽観的であり、 物事を深く考え ず問題を直視で きない独居高齢 者を地域で支え る	制度を活用して50万円分の 物の撤去	・本人に片付けを促す声掛 けを続け、民生委員等 地域住民も共に片づけを 支援する ・介護保険によるヘルパー 支援(内服管理の導入 ・本人に食生活を改善を促 す声掛けを続けていく。 ・本人が地域のサークル活 動や行事に参加するよう に促し、関係を継続して孤 立しないようにする	・介護保険によるヘルパー 支援(ゴミ出し)の導入 ・介護保険によるヘルパー 支援(内服管理の導入 ・本人に食生活を改善を促 す声掛けを続けていく。 ・本人が地域のサークル活 動や行事に参加するよう に促し、関係を継続して孤 立しないようにする	・ゴミ屋敷が地域に存在す るが、本人が片付ける気 にならなければ介入でき ない ・堆積物撤去の必要がある ゴミ屋敷に対応できる制 度の限界がある	ゴミ屋敷の対策時に区で統 一した物差しを作り、アセ スメントして、区民にも公 表して地域課題として区 民と共に取り組む。	・地域のサークル活動や 行事に参加を促し、本人 との関係を構築、切らさ ないように働きかけてい く ・ゴミ屋敷の対策時に区で 統一した物差しを作り、ア セスメントして、区民にも 公表して地域課題として 区民と共に取り組む	・地域のサークル活動や 行事に参加を促し、本人 との関係を構築、切らさ ないように働きかけてい く ・ゴミ屋敷の対策時に区で 統一した物差しを作り、ア セスメントして、区民にも 公表して地域課題として 区民と共に取り組む
13	千住本町	認知症になった男 性が地域で活躍で きる居場所	①認知症 ②介護予防	・認知症のため新 しい通いの場の 収集ができない。 ・認知症のため予 定管理、新しい 活動の場を覚え ることができな い。 ・ケアマネが地域 資源情報収集手 段を知らない。		・本人に通いの場の情報提 供をする ・予定表への記入、当日の 声掛け、誘導 (過去事例のため、支援時 期等は話し合い行わず。) ・ホウカツから定期的に情報 提供、通いの場HPの紹 介。	・本人に通いの場の情報提 供をする ・ホウカツから定期的に情報 提供、通いの場HPの紹 介。	・町会活動等、地域活動の 場であるとの認識されて いない地域活動がある ・町会等の昔からある地域 活動への参加者が減って いる。	活動内容(多世代交流等)や 周知方法(SNS使用等)を 工夫する		

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
14	中央本町	「認知症になっても、本人は自分らしく家族は安心して生活を続けられるための支援を考える」	①認知症 ②サービス拒否	・お試し通所(新しい居場所)利用の定着化 ・鍵紛失による通所時の不安の軽減を図る ・同好会に参加継続		代表から一部の仲間へ情報共有	・強い役割意識、責任感を持つ本人の性格に働きかけ、利用者ではなくボランティアとして参加している認識を支援者間でしっかり共有。 ・心配している隣人(協力員 ※今会議欠席)にも情報共有(デイ=新たな職場という意識共有、声掛けに配慮)	認知症に対する地域理解の進め方		参加者の意見(早い段階(子どものうち)から認知症に触れる・考える機会を作っていくために、子ども支援に関するNPOや学校PTA関係者に相談し、認知症に触れる機会を増やしていくための二層協議体の開催を図る。	・長女に9月末に開催される認知症サポーター講座に参加してもらい、講座内容や理解を進める上での意見聴取 ・参加者の意見(早い段階(子どものうち)から認知症に触れる・考える機会を作っていくために、子ども支援に関するNPOや学校PTA関係者に相談し、認知症に触れる機会を増やしていくための二層協議体の開催を図る
15	東和	金銭管理ができず生活費不足により、医療介護を拒否する高齢独居男性への対応	①サービス拒否 ②生活困窮 ③金銭管理 ④アルコール ⑤ゴミ屋敷	・医療継続支援 ・生活基盤安定 ・介護サービス安定化 ・家族連携			・訪問診療、自立支援医療利用の検討。保健師との連携 ・消滅時効援用にて対応中 ・退院後にサービスを利用する ・長女と情報共有を継続する。	包括的支援体制			関係機関等と情報共有しておき、問題が起きたら即対応できる体制を構築する。
16	中川	「音楽でつながる社会参加」～認知症があっても活躍できるしくみを考える～	①認知症 ②介護予防	・妻の理解・サポートが不十分 ・本人の認知症についてどこまで公表するか ・スケジュール管理、同行のサポートが必要			・妻へ受診、サポートの必要性を伝えていく ・公表した方がともに関われるようになることを伝える ・あいあいサポートの生きがい支援の活用を本人へ提案する	・認知症の方を受け入れるグループに知識、対応力が必要 ・認知症があっても活躍できる仕組みがない		・チームオレンジの検討 ・区の施策として認知症本人の活動を後押しできる仕組みが必要ではないか	・本人が演芸ボランティアに登録し、活動の場所を広げる(サポートが必要なことを公表し、マネジメントを依頼者が担う)
		「精神疾患・障がいによる物のため込みにより生活への支障や近隣への悪影響が出ている世帯への支援」	①精神疾患(疑念) ②ゴミ屋敷 ③ひきこもり・孤立 ④近隣トラブル ⑤障がい・精神障がい者同居 ⑥金銭管理 ⑦その他(多重介護)	・子の情報収集 ・子が人に慣れていく ・居宅環境の改善 ・夫に何かあると世帯の維持が困難になる ・妻の精神面への介入			夫へ福祉まるごと課への相談を促す 老い支度の提案(まずは夫)	障がい、ひきこもりなどの生きづらさを抱える方が相談に繋がりにくい			・団地ネットワーク会議 ・地域ケアネットワーク事業 ・絆のあんしんネットワーク連絡会